

平成29年度
「みえ産業振興戦略」
アドバイザーボード

平成30年1月25日

1. 産業構造の変革等を見据えたものづくり産業の振興について

2. 地域課題の解決を図る産業振興の視点について

【参考 1】 「みえ産業振興戦略」の取組状況について

【参考 2】 事業承継支援に関する集中取組について

【参考 3】 高度部材イノベーションセンター(AMIC)について

【参考 4】 平成29年度 県内事業者アンケートについて

1. 産業構造の変革等を見据えたものづくり産業の振興について

三重県の現状

■三重県は、製造品出荷額等の約60%を「輸送用機械器具製造業」「化学工業」「石油製品・石炭製品製造業」「電子部品・デバイス・電子回路製造業」で占めており、これらの製造業の大半が北勢地域に立地

①輸送用機械器具関連産業

- 製造品出荷額等の構成比 21.6%
- 全製造業に占める割合で、事業所数では8.3%、従業者数では19.7%であり、本県の製造業の中でも大きな割合を占めている
- 自動車メーカー（ホンダ、トヨタ車体）とそれらを支える部品メーカーの集積

②石油化学関連産業

- 製造品出荷額等の構成比 20.5%
- 後背地の自動車関連産業、電子・デバイス産業等を支えるコンビナート企業の集積

③電子部品・デバイス・電子回路関連産業

- 製造品出荷額等の構成比 17.8%
- 東芝、シャープ、JSR、富士電機など、世界と競うトップレベル企業の集積

④サポーティング・インダストリー

- サポーティング・インダストリーを担う高い技術力を持つ中小企業が集積

市場の動向と今後の見通し

- 第4次産業革命の急速な進展
- 世界経済の不透明性、経済連携協定（EPA）の形成と保護主義の動き
- 新興国経済の成長→世界経済の中心が、欧米からアジアへ移行する見込み

①輸送用機械器具関連産業（主に自動車関連産業）

- 英、仏、中をはじめとするEV化加速の動き
- 多様なパワートレインに対応した次世代自動車の開発・普及が進む（国内）
従来車（ガソリン、ディーゼル） 2016年：65.15%→ 2030年：30~50%
電気自動車（EV）（プラグイン・ハイブリッド車を含む） 同：0.59%→同：20~30%
- EV・自動走行技術の普及により、自動車の基幹部品が様変わりし、異業種の電機関連企業が台頭（蓄電池、モーター、インバーター等の新たな需要）
- ガソリン車に必要な約3万点の部品のうち、約4割がEV化で不要に
県内自動車産業への影響（自動車メーカー以外）※関連事業所数【H26工業統計】
 - ◆輸送用機械器具（内燃機関部品等33事業所、駆動・伝導・操縦装置部品40事業所）
 - ◆電気機械器具（内燃機関電装品30事業所）
- EV・自動走行化や国内需要の減少を見据えた生産体制の効率化・生産拠点集約化の動き
- 次世代自動車にも求められる軽量化と高強度化（安全性）

②石油化学関連産業

- 燃料転換や少子高齢化により、石油製品の国内需要は中長期的に減少
- 北米シェールガス、中国石炭ベース由来の安価な製品流入
- 中国等アジア新興国の石油・石化需要増の鈍化
- 石油・化学製品の生産減少に伴い、設備の集約や事業の再編、全体最適化のためのIoTによる生産革新等が必要
- 化学製品の多品種少量生産、高付加価値化への対応

③電子部品・デバイス・電子回路関連産業

- 第4次産業革命による市場の拡大（IoT、AI、大型サーバ等）
→半導体の高性能化、省エネ化（販売高：2030年には2015年の約2倍に増加）
- 液晶材料は価格下落や有機EL化による市場の厳しさ
- 今後も全世界の需要は大幅な拡大が見込まれるものの、外国企業との競争が激化

インフラ環境の変化

- 新名神高速道路（新四日市JCT～亀山西JCT）、東海環状自動車道（東員IC～大安IC）の順次開通（2018年度以降）
→新名神高速道路：東名阪自動車道（四日市～亀山間）の渋滞が9割減少 東海環状自動車道：大垣市・四日市市間の所要時間が55分（45分短縮）
- リニア中央新幹線の開業（東京～名古屋間：2027年、名古屋～大阪間：2037年）→三重県駅から名古屋まで約10分、大阪まで約20分、東京まで1時間以内
- 四日市港の利便性向上（霞4号幹線の整備）→伊勢湾岸自動車道（みえ川越IC）と接続 → 輸送コストの削減、集荷範囲の拡大など

現在の県の取組

- 航空宇宙、環境・エネルギー関連、ライフイノベーション分野などの成長が見込まれるものづくり産業を支援
 - ・人材の確保・育成、技術力の向上、事業環境の整備
 - ・AMIC（高度部材イノベーションセンター）による中小企業の新製品開発や技術開発等の支援、中小企業と大企業の連携促進 など
 - ・ICTの利活用促進
- サービス産業の高付加価値化
→産業構造の転換に伴う雇用の受け皿の創出としても有効

論 点

三重県産業を取り巻く外部環境(市場の動向・インフラ)が大きく変化しており、産業構造の変革等が進むと考えられる。こうした中、県内企業の取り組むべき方向性等を踏まえ、県としてものづくり産業の振興をどのように進めていくべきか。

2. 地域課題の解決を図る産業振興の視点について

人口減少・高齢化がますます加速する中、県民生活や県内産業に関わる様々な地域課題が顕在化してきている。一方、本県は北勢地域を中心に日本を代表するものづくり企業が数多く立地し、それら大企業を支える高い技術を持つ様々な中小企業が集積している。さらに、自然、歴史・文化、食などの豊かな地域資源や、伊勢志摩サミットで高まった知名度など多くの魅力や強みを有している。今後、産業振興を進めるにあたっては、本県産業のポテンシャルや技術力を生かして地域課題を解決していく視点が必要である。

地域課題		対応策	対応策に必要な技術等
現状	課題		
県民生活に関わる課題】			
■ 県南部、中山間地域を中心とした過疎化、高齢化の進行に伴う、交通不便地や交通空白地域の発生 拡大	安心・安全な移動手段の確保	■ 自動走行や運転支援を備えた次世代モビリティの普及 開発 ⋮	■ 自動走行等に必要な認知、判断、操作技術、駆動、情報処理基盤、軽量 高強度化、安全ノウハウなど
■ 医師の不足 偏在、看護師、介護従事者の不足 ■ へき地等において医療の提供が困難な状況 ■ 高齢化に伴う要介護者の増加や家庭の介護力の低下	地域医療体制と介護基盤の確保・充実	■ IoT AI センサー等を活用した予防医療の普及、遠隔診療による高度医療サービス提供 ■ ICT 介護ロボット センサー等を活用した介護現場の省力 省人化 ⋮	■ ビッグデータの収集解析、病診連携システム、介護ロボット、情報処理基盤など
■ 離島や山間部等における災害時の孤立化のリスク	災害時の応急対策	■ 自給自足できるエネルギーの確保 ■ ドローンを活用した情報収集、物資搬送 ⋮	■ 再生可能エネルギー、センサー技術、情報処理基盤など
⋮	⋮	⋮	⋮
県内産業に関わる課題】			
■ 少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少 ■ 若者の都市部への流出	製造業・サービス産業における労働力不足への対応	■ AI ロボット IoT等による自動化など中小企業等(製造業 サービス産業)における生産性向上 ⋮	■ 産業用ロボット、工作機械関連技術、生産工程管理システム、センサー技術、情報処理基盤など
■ 経済のグローバル化や国内市場規模の縮小 ■ 県南部、中山間地域を中心に高齢化や過疎化の急速な進展	農林水産業の後継者不足への対応	■ 農機や除草 収穫作業等のロボット 自動化 ■ ICTやビッグデータを活用した生産性向上 高付加価値化 ⋮	■ 農機の自動走行、収穫支援ロボット、生産管理、情報処理基盤など
■ 人口減少に伴う県内消費の低下	県内サービス関連市場の縮小	■ 商品 サービスの高度化 ■ 販路開拓、海外展開 ■ 集客人口増 ⋮	■ ブランド力、デザイン力、クリエイティブ活動など ⋮
⋮	⋮	⋮	⋮

本県産業のポテンシャルや技術力を生かす

